

令和2年度指導計画 (社会)

学番中等3 新潟県立燕中等教育学校

教科(科目)	社会	総時数	105 時間	学年(コース)	1 学年
使用教科書	○日本文教出版『中学社会地理的分野』 ○帝国書院『中学校社会科地図』				
副教材等	とうほう『ニュースタイルビジュアル地理』、文理『中学必修テキスト社会地理』、 新学社『地理用語ハンドブック』				

1 学習目標

広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

2 指導の重点

- ① 世界各地の人々の暮らしの様子とその変容を、自然的条件や社会的条件と関連付けて考察することができる。
- ② 世界の各州の基礎的・基本的な知識を習得し、それぞれの地域的特色を概観することができる。
- ③ 日本の各地方の地誌を学習し、特色ある地理的事象や事柄を、他の事象と有機的に関連付けて追究し、地域的特色をとらえることができる。

3 学習計画

月	単元名	教材	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	世界の姿		世界の地域構成を大観し、地球規模での位置関係をとらえる。	3	定期テスト 週末課題 授業の取り組み
			大陸と海洋のおよその位置関係、州の名称と位置、主な国の名称と位置を理解する。	3	定期テスト 週末課題 授業の取り組み
			緯度・経度の概念、地球儀と地図の特色と違いを理解することができる。	5	定期テスト 週末課題 授業の取り組み
5	世界各地の人々の生活と環境		世界各地の人々の生活とその変容を、自然的条件や社会的条件と関連付けて考察する。 世界各地の人々の生活や環境の多様性を理解する。 世界各地の人々の多様な生活や文化を尊重する態度を身に着ける。 世界の気候・宗教・言語の分布を大観する。	8	定期テスト 週末課題 授業の取り組み
6	世界の諸地域	1 アジア州 2 ヨーロッパ州 3 アフリカ州	世界の各州の基礎的・基本的な地域的特色を大観できる。 世界の各州のテーマをとおして各州の地域的特色を理解する。 写真・グラフ・写真などの資料を活用し、各州の地域的特色や地理的な見方・考え方の定着を図る。	15	定期テスト 週末課題 授業の取り組み 夏課題テスト
7		4 北アメリカ州 5 南アメリカ州 6 オセアニア州			
8	世界の様々な地域の調査		世界の地理学習のまとめとしての調査学習を行い、世界の地理的認識を深める。 文献資料などを収集・選択し、有効に活用する。 調査結果を分析整理してまとめ、発表する。	3	定期テスト 週末課題 授業の取り組み
9	日本の姿		地図を活用し、世界的視野から国土の位置や領域の特色を理解するとともに、日本の領域をめぐる問題について正しく理解する。 日本の様々な地域区分や、県の名称と位置、県庁所在地の名称を理解する。	5	定期テスト 週末課題 授業の取り組み

			地形図の約束事を理解し、読図能力を高める。	3	定期テスト 週末課題 授業の取り組み
10	世界から見た日本の姿	1 自然環境や災害防災から見た日本 2 人口から見た日本 3 資源・エネルギーと産業から見た日本 4 結びつきから見た日本	世界的視野から日本を一つの地域として取り扱い、日本の国土の特色を理解する。 日本全体の視野から大まかな国内の地域差に着目し、日本の国土の特色を理解することができる。 日本の地域的特色を、自然環境、人口、産業、資源・エネルギー、結びつきの面から理解する。	2 2	定期テスト 週末課題 授業の取り組み 冬課題テスト
11	日本の諸地域	1 九州地方	日本の各地方の基礎的・基本的な地域的特色を大観することができる。	3 1	定期テスト 週末課題 授業の取り組み 冬課題テスト (春課題テスト)
12		2 中国・四国地方			
1		3 近畿地方	日本の各地方の特色ある地理的事象や事柄を、他の事象と有機的に関連付けて学習し、各地方の地域的特色をとらえる。		
2		4 中部地方 5 関東地方	地図・グラフ・写真などの資料を活用し、各地方の地域的特色や地理的な見方・考え方の定着を図る。		
		6 関東地方 7 東北地方 8 北海道地方			
3	身近な地域の調査		地理的な見方・考え方や、地図や景観写真の読み取り方などの地理的技能を身につける。	5	定期テスト 週末課題
			調査結果・文献資料などの情報を収集・選択し、有効に活用する。	2	授業の取り組み 春課題テスト

計 1 0 5 時間 (50 分授業)

4 課題・提出物等

- ・週末に1週間の学習の復習として『必修テキスト』に取り組み、週明けに提出します。
- ・定期考査終了後、考査に向けた取り組みの成果を提出します。

5 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
(関心・意欲・態度)	(思考・判断・表現) (技能)		(知識・理解)
社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
社会的事象に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、よりよい社会を考え自覚をもって責任を果たそうとしている。	社会的事象から学習課題を見だし、社会的事象の意義や特色、相互の関連を様々な角度から分析し、公正に判断している。	地図や統計資料、映像など地域についての様々な資料を集め、価値ある情報を選択して活用し、追及し考察した過程や結果を地図にしたり、報告書にまとめたり、発表や討論などを行ったりしている。	社会的事象の意義や特色、相互の関連を理解し、その知識を身につけている。
以上の観点を踏まえ、 ・提出物(課題や授業ノートなど) ・定期考査、課題考査 ・授業への参加状況 などから、総合的に評価します。			

6 担当者からの一言

社会は、単純な暗記科目ではありません。新たに出てくる用語を覚える必要がありますが、「なぜ、そうなのか」「どんなしくみなのか」「関係していることは何なのか」などを、自分で説明できるようになることが大切です。そうすれば、苦手にならず、進んで学習できるようになるのではないのでしょうか。「わかる」ことが楽しくなるように、中学社会の学習の良いスタートを切りましょう。
(担当：長岡)